

田中康夫の



58

ニッポン凄いゾ論の終焉

「見ざる・聞かざる・言わざる」ならぬ「見ざる・聞かざる・デイスリまくり猿」な面々が都合5年4ヶ月余にも亘って唱和し続けた「嫌中・嫌韓・嫌朝」の「ニッポ

飛ばして反駁するでしょう。

或いは内心、少なからず疑心暗鬼が生じているかも知れません。

であればこそ、その不安を振り払うべく、虚勢を張り続けているのかも知れません。とまれ、「弁証法」を弁えぬ可哀相な人々です。ドワイト・D・アイゼンハワー

大統領時代に国務長官を務めたジョン・フォスター・ダレスは、「日米安全保障条約の産みの親」として、日本では好意的に捉えられています。が、その彼は、名譽白人としての日本人を看破していた老獪な人物でした。

「日本人のレイシズム＝人種差別主義、言い換えれば欧米への劣等感。他方でアジアに於ける近代人は自分たちのみで、中国人や朝鮮人、更にロシア人よりも優越している」と自惚れる日本人」

「その相反する屈折した感情＝アンビヴァレンスを巧妙に利用せよ。日本国民は、我々白色人種に從属する一方、アジアの黄色人種の中で孤立し続ける」

ン凄いゾ論」が、終焉を迎えようとしています。と申し上げるや、地球儀俯瞰外交が地球儀「傍観」外交に転じた冷徹な現実すら認められぬ彼らや彼女らは、口角泡を

ーンを起業した畏友・宋文洲氏は昨秋、以下の論考をメールマガジンで記しました。

「中国共産党の党員は約9千万人。日本の有権者数とほぼ同じ。全国に組織を持ち、選挙を通じて代表を選び、5年に一度北京に集まり、党大会を開催。こんなに巨大且つ強力な組織はなかなか世界に存在しません」

「中国人は国のトップを選ぶ選挙がないから。可哀相だと思っ日本人も多いが。…(国営マスコミが報道しなくともSNSが普及する前から)中国人の多くは党内政治の様子を知っており、利益闘争から路線闘争までの情報を共有し、独自の方法でそれぞれへの支持と反対に加担する。共産党も調査機関を通じて国民の動向をよく知っている。…政権のまずい政策が続くと国民の不満が言論からデモや暴動に発展していくので党内の反対派が自然にそれを利用して力を増していくのです」

「中国の一党独裁体制も既に70年近く続き。優秀な人材は殆ど共産党体制内部に集まり。国の方向から、代表する地域の利益まで相違がぶつかり合いながら最終的に政

策に収束していく。…バランスと妥協のプロセスであり、民主主義のプロセスでもある」

「党内闘争も優秀な人材同士の戦い。想像を絶し。建国の父である毛沢東が死んだ途端、奥さんが逮捕。どれほど党内の力が複雑且つ強力かは判ります」

「文化大革命や天安門事件などの失敗と挫折があっても中国という巨大な史上最大の国家を100年の没落からもう一度繁栄の軌道に乗せたのは事実です」

「20年後のことを予想できる人はいません。40年前、ソ連崩壊を予想しましたか？ 20年前、中国が再び世界一位のGDPを生み出すと予想できましたか？ 2千年にも亘って日本が中国の体制を学んできた歴史にそれだけの理由はあったに違いありません」

「今日のタイトル『日本がまた中国の政治体制を学ぶ日』を嗤って済ませるのでなく、今の日本政治を考察するヒントになれば」と締め括る宋氏。エドワード・サイードの足元にも及ばぬ小生の20年以上前の造語。「肉体は黄色人種なれど精神は白色人種」を演じる『黄色いバナナ』を想起しました。

★次号の冊子の発行口はのりー田中康夫。